

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 株式会社日本アムニティライフ協会

研修事業の名称 株式会社日本アムニティライフ協会 介護職員初任者研修(通信)

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	2 時間	<p>《講義内容》</p> <p>○今日的な地域包括ケアシステムの推進に向けた動向や介護保険制度の改正など実際の多様な介護サービスを取り巻く状況についても補足する。介護保険サービスの種類や全体的な枠組みを理解する。</p> <p>○介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。</p> <p>○介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。</p> <p>○介護保険外の介護サービスの説明と介護ニーズの多様性の理解を図り意義や目的を説明する。</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	<p>《講義内容》</p> <p>○視聴覚教材等を活用し、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。付録のDVDを活用する。DVDは、介護職がどのような場で、どのような利用者に対して、どのようなサービスを提供するのか、具体的なイメージをもつことができるように、実践的な取り組みを紹介する内容になっている。具体的には、①訪問介護、②通所介護、③認知症対応型共同生活介護、④小規模多機能型居宅介護、⑤介護老人福祉施設、⑥障害福祉サービス、を取り上げている。</p> <p>○視覚教材内容に関する補足説明を行う。各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。</p> <p>○介護保険サービスの利用の流れに沿ってケアマネジメントの基本的なしくみについて説明する。合わせてケアプランの位置づけ、チームアプローチ、多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携について理解を図る。</p> <p>《演習内容》</p> <p>○各事業所での基本的な業務に関して事例資料を用いた個人演習ワークを行いながら具体的なイメージをもって理解を図れるようにする。</p> <p>○仕事上でのチームアプローチに焦点を当てグループ演習を行う。KJ 法を用いながら介護職同士の連携、他職種間の連携(看護職、調理担当者、ケアマネ等)との重要性について話し合いを行う。</p>
合計	6 時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 人権と尊厳を支える介護	5 時間	2 時間	3 時間	2-1	<p>《講義内容》</p> <p>○虐待防止・身体拘束禁止について説明する。社会的に明らかになっている事件などを取り上げ、実践上での具体的な理解が図れるようにする。</p> <p>介護保険指定基準上の身体拘束禁止項目の説明、高齢者虐待防止法における虐待の定義、及び地域における対応のしくみなどの理解を図る。高齢者の養護者支援の必要性とその支援の方法について説明する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>○高齢者虐待のニュース事例を用い、倫理的な視点からグループディスカッションを行う。社会的な支援の方法について補足説明する。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>(1) 人権と尊厳の保持</p> <p>○個人として尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護</p> <p>(2) ICF ○介護分野におけるICF</p> <p>(3) QOL ○QOLの考え方、○生活の質</p> <p>(4) ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(5) 虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援</p> <p>(6) 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業</p>
② 自立に向けた介護	4 時間	0 時間	4 時間	2-2 2-3 2-4 2-5	<p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>(1) 自立支援</p> <p>○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性／個別ケア、○重度化防止</p> <p>(2) 介護予防</p> <p>○介護予防の考え方</p>
合計	9 時間	2 時間	7 時間		

3 介護の基本（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	0時間	2時間	3-1 3-2 3-4	<p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>(1)介護環境の特徴の理解○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性</p> <p>(2)介護の専門性○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム</p> <p>(3)介護に関わる職種○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担</p>
②介護職の職業倫理	1時間	0時間	1時間	3-3 3-5	<p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>(1)職業倫理○専門職の倫理の意義、○介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)、○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重</p>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	2時間	0時間		<p>《講義内容》</p> <p>○介護における安全の確保について説明する。事故に結びつく要因を探り対応していく技術(危険予知能力の育成)の重要性について理解を図る。</p> <p>ヒヤリハット事例の現場での活用など危険とならないように介護の質を向上する対応の重要性について理解を図る。</p> <p>○事故予防、安全対策について以下の視点から説明する。(組織的な対応としてのリスクマネジメント、介護事故等の分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告、家族への報告、市町村への報告、組織や事業所での情報の共有)</p> <p>○感染対策について介護現場での事例を示しながら以下の視点から説明する。(感染の原因と経路、感染源の排除、感染経路の遮断、「感染」に対する正しい知識をもつ)</p> <p>《演習内容》</p> <p>○介護事故のインシデント事例を用い、原因の仮説立案のためのアセスメントを行い具体的な対応策について立案する。多面的なアセスメントの重要性や情報共有を通じた再発防止に向けた対応について理解を図る。</p>

④介護職の安全	1時間	1時間	0時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護職の心身の健康管理について介護の質に影響することを理解する。 ○介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を実践的な理解が図れるように説明する。 ○腰痛の予防に関して、負担のかからない介護の方法やボディメカニクスのしくみを紹介し理解を図る。 ○介護職者の感染症対策やそれに伴う手洗い・うがいの励行、手洗いの基本的な方法について理解を図る。
合計	6時間	3時間	3時間		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	3時間	0時間	3時間	4-1	≪添削課題出題ポイント≫ (1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、○地域包括支援センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進(2)仕組みの基礎的理解○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、○予防給付、○要介護認定の手順(3)制度を支える財源、組織・団体の機能と役割○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定
②医療との連携と リハビリテーション	3時間	2時間	1時間	4-3	≪講義内容≫ ○医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて理解を図る。 ○在宅における訪問介護や施設での介護職の役割を中心に看護職の専門職性や役割を理解し、連携方法について実践的な理解を図る。 ≪演習内容≫ ○尿道カテーテル使用、低酸素療法、人工肛門等の利用者の対応における車椅子対応時の事故や入浴介助時の事故などインシデント事例を用いて、適切な対応方法や看護職との連携について理解を図る事例演習を行う。
③障害者自立支援制度およびその他制度	3時間	0時間	3時間	4-2	≪添削課題出題ポイント≫ (1)障害者福祉制度の理念○障害の概念、○ICF(国際生活機能分類) (2)障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業
合計	9時間	2時間	7時間		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	3時間	3時間	0時間		<p>《講義内容》</p> <p>○介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について理解を図る。特に相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答について理解を図る。</p> <p>○コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーションについて理解を図る。特に言語的コミュニケーションの特徴、非言語的コミュニケーションの特徴について理解を図る。</p> <p>○利用者・家族とのコミュニケーションの実際について、以下の観点から理解を図る。（利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い）</p> <p>○利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際について以下の観点から理解を図る。（視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術）</p> <p>《演習内容》</p> <p>○共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて理解を図るためにマイクロカウンセリングの方法を用い、ロールプレイ演習を通して実践的な理解を図る。</p>

②介護における チームのコミュニケーション	3時間	1時間	2時間	5-1 5-2 5-3	<p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>(1)記録における情報の共有化</p> <p>○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する記録の種類、○個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)、○ヒヤリハット報告書、○5W1H</p> <p>(2)報告</p> <p>○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点</p> <p>(3)コミュニケーションを促す環境</p> <p>○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)、○ケアカンファレンスの重要性</p> <p>《講義・演習内容》</p> <p>○モデルのロールプレイ状況を記録演習し、介護における記録の意義と目的を理解し、利用者状態を踏まえた観察と記録の留意点などについて理解を図る。</p>
合計	6時間	4時間	2時間		
6 老化の理解 (6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	3時間	0時間		<p>《講義内容》</p> <p>○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について、以下の観点から理解を図る。(防衛反応<反射>の変化、喪失体験)老化が及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。</p> <p>○老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について以下の観点から説明する。(身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響)</p> <p>《演習内容》</p> <p>○高齢者の喪失体験に関するライフストーリーの記録をもとにグループ演習を行う。どのように理解を図り、どのような心理的配慮とともに支援を行う必要があるのかを考える。</p>

②高齢者と健康	3 時間	0 時間	3 時間	6-1 6-2 6-3	≪ 添削課題出題ポイント ≫ (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、○循環器障害の危険因子と対策、○老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症)、○誤嚥性肺炎、○症状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	1時間	0時間	1時間	7-1 7-4	<p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>(認知症ケアの理念)○パーソンセンタードケア、○認知症ケアの視点(できることに着目する)</p>
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1時間	0時間	1時間	7-2 7-3	<p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>(認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理)</p> <p>○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬</p>
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	3時間	3時間	0時間		<p>《講義内容》</p> <p>○認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴について、以下の観点から理解を図る。(認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状、不適切なケア、生活環境を通しての改善)</p> <p>○認知症の利用者への対応について、以下の観点から説明する。(本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、身体を通じたコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行に合わせたケア)</p> <p>○認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。</p> <p>《演習内容》</p> <p>○モデルロールプレイ演習を行い、演習後の説明を通して認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントを理解し、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)について理解を図る。</p>

④家族への支援	1時間	0時間	1時間	7-5	≪添削課題出題ポイント≫ ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減(レスパイトケア)
合計	6時間	3時間	3時間		
8 障害の理解 (3時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1時間	0.5時間	0.5時間	8-1	≪講義内容≫ ○障害の概念とICFについて、以下の観点から理解を図る。 (ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方) ○障害者福祉の基本理念について説明する。特にノーマライゼーションの概念について、歴史的背景とともに今日的な福祉実践の中での理解を図る。 ≪添削課題出題ポイント≫ ○ICFの分類と医学的分類○ICFの考え方
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	0時間	1時間	8-2 8-3 8-4	≪添削課題出題ポイント≫ (1)身体障害 ○視覚障害、○聴覚、平衡障害、○音声・言語・咀嚼障害、○肢体不自由、○内部障害 (2)知的障害 ○知的障害 (3)精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) ○統合失調症・気分(感情障害)・依存症などの精神疾患、○高次脳機能障害、○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4)その他の心身の機能障害
③家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	1時間	0時間		≪講義内容≫ ○家族への支援について、以下の観点から理解を図る。(障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減) ≪演習内容≫ ○障害をもつ子どもの母親の手記を用い、家族への支援に関する個人ワーク演習を通して実践的に理解を図れるようにする。
合計	3時間	1.5時間	1.5時間		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (76 時間)						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	2 時間	2 時間	0 時間		≪講義内容≫ ○理論に基づく介護について、以下の観点から理解を図る。(ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ○法的根拠に基づく介護について説明する。 ≪演習内容≫ ○根拠の不明な我流介護のもたらす危険性と根拠に基づく介護支援の重要性について、事例資料をもとにグループで考察する。
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	5 時間	0 時間	5 時間	9(2) -1 9(2) -2 9(2) -3 9(2) -4 9(2) -5	≪添削課題出題ポイント≫ ○学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識、○自己概念と生きがい、 ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、○こころの持ち方が行動に与える影響、○からだの状態がこころに与える影響
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5 時間	0 時間	5 時間	9(3) -1 9(3) -2 9(3) -3 9(3) -4 9(3) -5 9(3) -6	≪添削課題出題ポイント≫ ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、○自律神経と内部器官に関する基礎知識、○こころとからだを一体的に捉える、 ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点

生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	4時間	4時間	0時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について、以下の観点から理解を図る。(生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観) ○掃除・ごみ捨て援助のポイントや基本原則について理解を図る。 ○洗濯援助のポイントや基本原則について理解を図る。 ○調理援助のポイントや基本原則について理解を図る。○衣服の補修・裁縫・衛生管理、買い物、会計管理援助に関するポイントや留意点について理解を図る。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理援助に関して、模擬事例を用い、グループ演習を通して調理援助の計画を作成し報告する。配慮すべき点や原則を踏まえ考察し理解を図る。
	⑤快適な居住環境整備と介護	4時間	4時間	0時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法について、以下の観点から理解を図る。(家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与) <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者や障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用に関して特殊寝台、車椅子、歩行補助具、腰掛便座、入浴補助用具、等を実際に用いて基本的使用方法について演習実技を行う。
	⑥整容に関連したところとからのしくみと自立に向けた介護	5時間	5時間	0時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○整容に関する基礎知識、整容の支援技術について、以下の観点から説明〈および実技演習〉を行う。(身体状況に合わせた衣服の選択・着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果) <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○衣服の着脱に関して、右片麻痺がある人の上衣・ズボンの着脱のための一部介助の方法について実技演習を行う。 ○衣服の着脱に関して、ベッド上で右片麻痺がある人の上衣・ズボン着脱のための全介助の方法について実技・演習を行う。

<p>⑦移動・移乗 に関連したこ ころとからだの しくみと自立 に向けた介護</p>	<p>7 時間</p>	<p>7 時間</p>	<p>2 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>○移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する 用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない 移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方 法、移動と社会参加の留意点と支援に関して、以下の観点から 説明くおよび実技演習>を行う。</p> <p>(利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然 な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、重心・重力の動き の理解、ボデーメカニクスの基本原理、移乗介助の具体的な方 法<車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車 いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗)、 移動介助<車いす・歩行器・つえ等>、褥瘡予防、歩行介助<視 覚障害者の支援></p> <p>《演習内容》</p> <p>○体位変換に関して、ベッド上で左片麻痺がある人の仰臥位から 側臥位への変換のための一部介助の方法について実技・演習 を行う。</p> <p>○体位変換に関して、ベッド上で左片麻痺がある人の起き上がり から端臥位への変換のための一部介助の方法について実技・ 演習を行う。</p> <p>○体位変換に関して、ベッド上で左片麻痺がある人の端臥位から 立位への変換のための一部介助の方法について実技・演習を 行う。</p> <p>○体位変換に関して、ベッド上で左片麻痺がある人の端臥位から 立位への変換のための全介助の方法について実技・演習を行 う。</p> <p>○歩行介助に関して、視覚障害がある人の平地歩行のための一 部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○歩行介助に関して、視覚障害がある人の段差越えのための一 部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○歩行介助に関して、視覚障害がある人の階段昇降のための一 部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○移乗介助に関して、左片麻痺がある人のベッドから車いすのた めの全介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○移乗介助に関して、左片麻痺がある人の車いすから洋式トイレ への移乗のための全介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>9(7) ○移動介助に関して、車いす<平地・段差・坂道>での介助の方 -1 法について実技・演習を行う。</p> <p>9(7) ○移動介助に関して、歩行器<平地・段差・坂道>での介助の方 -2 法について実技・演習を行う。</p> <p>9(7) -3</p> <p>9(7) -4</p>
--	-------------	-------------	-------------	--

					<p>○移動介助に関して、つえ歩行<平地・段差・坂道>での介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○移動・移乗に関する基礎知識、○利用者の自然な動きの活用、○残存能力の活用・自立支援、○重心・重力の動きの理解、○ボディメカニクスの基本原理</p>
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5時間	5時間	0時間	<p>《講義内容》</p> <p>○食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について、以下の観点から説明<および実技演習>を行う。(食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備<時間・場所等>、食事に関した福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防)</p> <p>《演習内容》</p> <p>○食事介助に関して、右片麻痺がある人の座位による一部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○食事介助に関して、右片麻痺がある人のベッド上による全介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○口腔ケアに関して、ブラッシング法を用いた口腔ケア方法の実技・演習を行う。</p> <p>○食事に関連した福祉用具の活用と介助方法について実技・演習を行う。</p>	

<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5 時間</p>	<p>5 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>○入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、以下の観点から説明くおよび実技演習を行う。(羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭く身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方)、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部清浄く臥床状態での方法)、足浴・手浴・洗髪)</p> <p>《演習内容》</p> <p>○入浴介助に関して、右片麻痺がある人の入浴介助のための一部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○入浴介助に関して、足浴・手浴介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○入浴介助に関して、洗髪介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○清拭介助に関して、上半身介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○清拭介助に関して、下半身介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○清拭介助に関して、手足介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○清拭介助に関して、目・鼻・耳・爪の清潔保持の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○陰部清浄に関して、く臥床状態くでの方法について実技・演習を行う。</p>
--	-------------	-------------	-------------	---

<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5 時間</p>	<p>5 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>○排泄に関する基礎知識、さまざま排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、以下の観点から説明くおよび実技演習>を行う。(排泄とは、身体面<生理面>での意味、心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の手段、おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、便秘の予防<水分の摂取量保持、食事内容の工夫、繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ)</p> <p>《演習内容》</p> <p>○排泄介助に関して、右片麻痺がある人のベッドからポータブルトイレ使用のための一部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○排泄介助に関して、右片麻痺がある人(女性)のベッド上でのパッド・紙おむつ交換のための全介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○排泄介助に関して、右片麻痺がある人(男性)(女性)のベッド上での尿器使用のための一部介助の方法について実技・演習を行う。</p>
<p>⑪睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5 時間</p>	<p>5 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>○睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、以下の観点から説明くおよび実技演習>を行う。(安眠のための介護の工夫、環境の整備、<温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室>、安楽な姿勢・褥瘡予防)</p> <p>《演習内容》</p> <p>○就寝介助に関して、誘導、着替え等の基本的な方法について実技・演習を行う。</p> <p>○ベッドメイキングに関して、基本的な方法について実技・演習を行う。</p> <p>○敷きシーツ交換に関して、ベッド上に利用者が寝ている場合の介助方法について実技・演習を行う。</p> <p>○コーナーの作り方に関して、(三角コーナー)(四角コーナー)方法について実技・演習を行う。</p>

	⑫死にゆく人 に関するこ ろとからだのし くみと終末期 介護	2時間	2時間	0時間	<p>《講義内容》</p> <p>○終末期の関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援について、以下の観点から説明くおよび実技演習を行う。(終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程く高齢者の自然死・老衰、癌死、臨終が近づいたときの兆候と介護、介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性)</p> <p>《演習内容》</p> <p>○書籍事例等を用い、「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について必要な支援の在り方について考えることができるようにグループ演習を行う。</p>
生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の 基礎的理解	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>○個別支援計画の作成を通して介護過程の目的・意義・展開について理解を図る。</p> <p>○介護過程とチームアプローチについて説明する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>○グループ演習を通した個別支援計画の作成演習を通して基本的な介護過程の理解を図る。</p>		
	⑭総合生活 支援技術演 習	9時間	<p>《講義内容》</p> <p>○生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>《演習内容》</p> <p>○「トイレでの排泄にこだわりをもつ利用者の支援の事例(片麻痺)」、「独身の一人息子が無心に着て暴力的な対応を受けた一人暮らしの高齢者」(認知症)の2事例について、こころとからだの力が発揮できない要因分析を行う。次段階で適切な支援技術の検討を行う。その後、支援技術演習、支援技術の課題(1事例1.5時間程度で前記のサイクルを実施する)を行う。実施後に個別評価・確認を行う。</p>		
実習		8時間	<p>○施設や機関の役割や機能について実践的な理解を図る。</p> <p>○小規模多機能居宅介護での実習を通して、在宅高齢者や介護者の支援や地域包括支援システム等も視野に入れた実践的な理解を図る。</p> <p>○認知症対応型共同生活介護(グループホーム)での実習を通して、認知症高齢者の支援や介護のあり方について理解を図る。</p>		
	合計	76時間			

10 振り返り（4時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>○以下の観点から講義と演習を通して理解を図る。(研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点<利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)</p> <p>《演習内容》</p> <p>○「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識をもって、身だしなみ、言葉づかい応答の態度など業務における基本的態度の模擬演習を行い介護を行えるよう理解を促す。</p>
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>○以下の観点から講義と演習を通して理解を図る。(継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介)</p> <p>《演習内容》</p> <p>○G演習形式でキャリアプランに応じた自己課題や学習計画等に関し情報交換することで、視野や情報を広げ自己の継続的な学習等に活かす。演習後、いくつかの法人組織における特徴のあるOJT等の教育研修システムを紹介する。OFF-OJTに関しては、法定研修や資格学習について情報提供する。</p>
合計	4時間	
全カリキュラム合計時間		131時間

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。

